

くんち神輿が140年ぶりに里帰り

現在長崎歴史文化博物館では今年3月長崎市に寄贈されたくんち神輿を展示・公開しています。是非、ご取材・情報掲載の程、宜しくお願い申し上げます。



諏訪神社の秋の大祭、長崎くんちで行われる渡御（お下り）と還御（お上り）で使われる神輿の中で、現存する最も古い神輿がこの度、140年ぶりに長崎に帰ってきました。本神輿は延宝4年（1676）から明治11年（1878）まで長崎くんちで実際に使われていたもので、その後、神輿が新調されたこととともない、諏訪神・森崎神の神輿とともに、福岡県柳川市にある三島神社に譲渡され、保管されていました。

本神輿と同じものが、「長崎諏訪祭礼図屏風」（当館蔵）や「崎陽諏訪明神祭祀図」（大阪府立中之島図書館蔵）の中にも描かれていることが明らかになり、長崎くんちの研究にとっても大変貴重な資料といえます。

本神輿は今年3月に長崎市に寄贈され、現在、長崎歴史文化博物館で展示公開されています。

《展示場所》長崎歴史文化博物館 2階ロビー ※観覧無料

